

## (2) 「緑の流域治水」関連技術に関する研究基盤設備の整備

令和3年4月に学内に「緑の流域治水研究室」を設置。

令和3年10月、JST(国立研究開発法人 科学技術振興機構)の事業採択を受け、年間最大2億円、最長10年間の研究助成を受けることが決定し、「流域治水を核とした復興を起点とする持続社会地域共創拠点」の研究プロジェクトが始動。

県立大学が代表機関となり、熊本県、肥後銀行が幹事機関として参画し、14の研究機関、11の民間企業と共同で研究を行っている。

### ○実験水路(延長50m)：令和5年3月に整備完了

洪水をゆっくり下流に流すためにはどのような河川改修（蛇行等の形状、護岸の構造等）が適しているのか、実際の河川を模した実験水路で検証を行う。

**名古屋工業大学等と共同で、  
今年夏頃から本格的に実験を開始**

### ○実験棟：令和4年10月から運用開始

上記水路の運用のための観測室や、実験用の工作物等を製作するための工作室等を備える。

